



2026年5月8日版

ATEN ジャパン株式会社 技術本部

ATEN 会議室予約システム(RBS)

Google Workspace セットアップガイド



内容

1. はじめに.....	4
1.1 本ガイドの目的	4
1.2 ATEN 会議室予約システムとは	4
主なメリット	4
導入時の注意点.....	4
1.3 予約システムの仕組み.....	5
各機器の役割.....	5
カレンダー連携の流れ	5
新規アカウントの追加は不要.....	5
会議室リソースにライセンスは不要	5
1.4 前提条件.....	6
2. セットアップの全体像	7
セットアップ中に控えておく情報.....	7
3. Google Workspace での会議室作成	8
3.1 管理コンソールへのログイン	9
3.2 ビルディングの登録.....	10
3.3 会議室の作成	12
3.4 リソースメールの控え.....	14
4. Google Cloud Platform でのプロジェクト作成と API 有効化.....	15
4.1 Google Cloud Platform へのログイン	15
4.2 新しいプロジェクトの作成.....	16
4.3 プロジェクト情報の控え	17
4.4 Google Calendar API の有効化.....	18
4.5 Admin SDK API の有効化.....	20
5. 組織ポリシーの変更	21
5.1 組織のポリシー画面を開く	21
5.2 対象ポリシーの検索と変更.....	22
5.3 設定の確認.....	24
6. サービスアカウントと秘密鍵の作成	25
6.1 サービスアカウント画面を開く	25
6.2 サービスアカウントの作成.....	26
6.3 秘密鍵の作成とダウンロード	28
7. OAuth 同意画面とドメイン全体の委任	30

7.1 OAuth 同意画面の設定(GCP 側)	30
7.2 OAuth2 クライアント ID の控え(GCP 側).....	33
7.3 サードパーティアクセスの許可(Workspace 側).....	34
7.4 ドメイン全体の委任(Workspace 側)	38
8. RBS Configurator での設定.....	40
8.1 カレンダー設定	41
8.2 デバイス設定	42
8.3 プロファイルのアップロード	43
9. 設定の確認とトラブルシューティング	44
9.1 動作確認.....	44
9.2 パネル端末がカレンダーに接続できない.....	44
9.3 秘密鍵が作成できない.....	44
9.4 秘密鍵を紛失した	44
9.5 設定が反映されない.....	44
10. FAQ	45
10.1 Google Cloud Platform は従量課金だが、いくらかかるか?	45
10.2 Google Cloud Platform での利用制限はあるか?.....	45
10.3 VK430 の画面で英語表記になっているので、日本語に直したい	45
10.4 何度か更新したら VK430 が「未接続」になってしまった	46
10.5 VK430 を 1 台ごとに Google のアカウントが必要か?.....	46

1. はじめに

1.1 本ガイドの目的

本ガイドは、ATEN 会議室予約システムを Google Workspace 環境で動かすまでの手順をまとめたものです。作業で使うのは Google Workspace と Google Cloud Platform(GCP)の 2 つのコンソールです。どちらもブラウザから操作します。

こちらは簡易的に設定するためのガイドとなります。RBS configurator などの操作方法や製品本体の詳細な情報については ATEN 会議室予約システムの予約端末、VK430 などの製品マニュアルをご参照ください。

1.2 ATEN 会議室予約システムとは

本製品は会議室入口に設置するタッチパネル VK430 と、Google Workspace のカレンダー機能を連携させた予約管理システムです。

Google Workspace に登録された会議室リソースのカレンダーデータを、GCP の Calendar API を通じて読み書きします。Google カレンダー側で予約を入れるとタッチパネルに即座に反映され、逆にパネル側で予約や延長、終了の操作もできます。

主なメリット

既存の Google Workspace を契約しているならアカウントを追加せず、そのまま利用できます。Google カレンダーで入れた予約がパネルに表示されるため、通りがかりに空き状況がわかり、予約なしの利用や二重予約を減らせます。

導入時の注意点

VK430 など予約端末は Google にアクセスするため、社内や校内からインターネットに接続できるネットに配備してご利用いただく必要がございます。これらのアクセスに伴うセキュリティ設定はお客様の環境に合わせてご準備いただきますようお願い申し上げます。

設定作業は Google Workspace と Google Cloud Platform の 2 つのコンソールを行き来します。それぞれの役割を先に整理しておく、手順の意図がつかみやすくなります。

1.3 予約システムの仕組み

ATEN RBS は 3 種類の機器と 2 つの Google サービスで構成されます。

各機器の役割

VK430 は会議室入口のタッチパネル端末で、予約操作と空き状況の表示を担います。ATEN 専用アプリだけが動作する Android 端末です。

VR610 は表示専用の補助端末です。あらかじめ指定した VK430 とだけローカル通信し、インターネットには接続しません。同じネットワークセグメントに配備する必要があります。

RBS Configurator は PC 上で動くセットアップツールです。VK430 や VR610 など各端末の画面デザインとカレンダー接続先を、このアプリ 1 つから設定します。

カレンダー連携の流れ

VK430 は Google Calendar API と Admin SDK API を使って、会議室リソースのカレンダーを直接読み書きします。予約の作成から変更、削除まで、すべてリアルタイムに反映される仕組みです。

認証は、管理者が事前に発行したサービスアカウントと秘密鍵で自動的に行われます。利用者が VK430 を触るたびに Google へログインする必要はありません。

新規アカウントの追加は不要

本製品は既存ユーザーの代理としてカレンダーにアクセスします。予約システム用のユーザーアカウントを新しく作る必要はなく、現在の Google Workspace のアカウント構成をそのまま使えます。

会議室リソースにライセンスは不要

Google Workspace の会議室リソースは、ユーザーアカウントと扱いが異なりライセンスの追加契約が発生しません。この扱いは 2026 年 4 月時点の仕様にもとづきます。

1.4 前提条件

本ガイドを進めるには、下記の準備がすでに整っている必要があります。

- 独自ドメインを取得済み(例 : example.co.jp)
- Google Workspace のアカウントを取得済みで、独自ドメインと紐付け済み
- Google Cloud Platform のアカウントを取得済みで、Google Workspace と紐付け済み
- Google Workspace の管理者権限を持つアカウントが利用可能
- VK430 パネル端末がネットワークに接続済み
- RBS Configurator をインストールした PC を用意

ヒント

ドメインアドレスの取得、Google Workspace と GCP のアカウント取得、それらを紐付ける手順は本ガイドの対象外です。Google 公式ドキュメントやレジストラなどで公開されている資料をもとに事前に準備してください。

2. セットアップの全体像

セットアップは次の 6 ステップで進みます。順番に実施してください。

ステップ	作業場所	作業内容	対応する章
1	Google Workspace	会議室リソースの作成	第 3 章
2	Google Cloud Platform	プロジェクト作成と API の有効化	第 4 章
3	Google Cloud Platform	組織ポリシーの変更	第 5 章
4	Google Cloud Platform	サービスアカウントと秘密鍵の作成	第 6 章
5	GCP と Workspace 両方	OAuth 同意画面とドメイン全体の委任	第 7 章
6	RBS Configurator	パネル端末への設定配布	第 8 章

セットアップ中に控えておく情報

途中で取得する情報を、最後に RBS Configurator でまとめて入力します。メモ帳を開いた状態で作業を始めると、後で探し直す手間を省けます。

情報	取得する章	使用する場所
リソースメール(会議室ごと)	第 3 章	RBS Configurator のデバイス設定
プロジェクト名	第 4 章	RBS Configurator のカレンダー設定
サービスアカウントのメールアドレス	第 6 章	RBS Configurator のカレンダー設定
秘密鍵の JSON ファイル	第 6 章	RBS Configurator のカレンダー設定
OAuth2 クライアント ID	第 7 章	Google Workspace のドメイン全体の委任設定

3. Google Workspace での会議室作成

Google Workspace に会議室リソースを登録します。Workspace の仕様上、会議室の前にビルディング(建物情報)を先に作る必要があります。

ヒント

VK430 本体 1 台につき会議室リソースが 1 つ必要です※ ここから解説している内容は会議室 1 つ分の手順になります。複数の会議室がある場合は、会議室の数だけ同じ手順を繰り返してください。

※ すでに会議室がある場合は改めて作成し直す必要はありません。

3.1 管理コンソールへのログイン

1. ブラウザで <https://workspace.google.com/> にアクセスし、Google Workspace の管理者アカウントでサインインします。
2. 左ペインから「ディレクトリ」>「ビルディングとリソース」>「リソースの管理」をクリックします。
3. 画面右下の「ビルディングを管理」をクリックします。



3.2 ビルディングの登録

会議室が入っている建物の情報を先に登録します。すでにビルディングを登録済みであれば、3.3 節に進んでください。

1. 「ビルディングを追加」をクリックします。



The screenshot shows the Google Workspace Admin console interface. On the left is a navigation menu with icons for Home, Directory, Devices, Apps, AI, Payments, and Accounts. The top right has a search bar and a breadcrumb trail: 'Buildings and Resources > Resource Management > Buildings'. Below the breadcrumb, there is a table header for 'ビルディング' (Buildings) with columns for ID, Name, Floor, and Address. A red box highlights the 'ビルディングを追加' (Add Building) button in the top right corner of the table area.

ID	名前	階	住所
ビルディングを追加			

2. 入力が必要なビルディング情報や階数を入力します。名前を入れると ID が自動で生成されます。住所も入れておくと、会議室が増えたときの整理で役立ちます。

3. 入力を終わったら「ビルディングを追加」をクリックします。

新しいビルディングを追加

ID *
 ATEN本社ビル

名前 *
 ATEN本社ビル

説明

階数 *
 2F, 3F, 4F

住所

* は必須項目です

キャンセル
ビルディングを追加

3.3 会議室の作成

1. 画面右上のプルダウンで、表示を「ビルディング」から「リソース」に切り替えます。



2. 画面中央の「+」アイコンをクリックします。これは会議室を追加するボタンです。



3. リソース追加画面で下記を入力します。

- リソース名：端末に大きく表示されるため、社内に通じる名前を入力
- カテゴリ：「会議スペース」を選択
- ビルディング：前の項目で作成したビルディングを選択
- 階数、階のセクション、収容人数：必要に応じて入力

ヒント

会議室に固有の名前がない場合は、特徴を「説明」欄に内部向けの情報入力しておく便利です。たとえば、1F 倉庫横、エレベーターホール裏、来客部屋といった社内に通じる呼び方を記入すると利便性が向上します。

4. 入力が終わったら「リソースの追加」をクリックします。会議室が複数ある場合は、同じ手順を繰り返してください。

リソースの追加

自動生成されたリソース名
 ATEN本社ビル-2F-201-第1会議室(A会議室) (4)

カテゴリ *	種類
会議スペース (会議室、電話ブースなど)	例: 電話ブース、マザーズルーム、自転車など

ビルディング *	階数 *	階のセクション
ATEN本社ビル	2F	201

リソース名 *	収容人数 *
第1会議室(A会議室)	4

設備や機能
 まず設備や機能を定義し、その後で追加してください。

ユーザーに表示される説明

説明を追加 (内部向け)
 * は必須項目です

 ビルディング、階数、収容人数などのリソース情報を指定すると、自動生成されるリソース名や会議室の検索に影響します。詳細

キャンセル
リソースの追加

3.4 リソースメールの控え

作成した会議室には、Google 側で自動的にリソースメールというメールアドレスが割り当てられます。VK430 設定時で使うため、メモ帳などにこのメールアドレスの控えを用意しておいてください。

1. リソース一覧で、作成した会議室をクリックします。



2. 詳細画面の「リソースメール」欄に表示されているメールアドレスをメモ帳にコピーします。



注意

リソースメール(メールアドレス)は第 8 章の RBS Configurator 設定で使います。会議室ごとに異なるため、VK430 を設置するすべての会議室分のメールアドレスを控えてください。

ヒント

このメールアドレスは、GCP の API 経由でアクセス先として指定されます。RBS Configurator の「カレンダー設定」内の「サービスアカウント」欄に入れるとエラーになります。入力するのは「デバイス設定」の会議室アカウント欄です。

4. Google Cloud Platform でのプロジェクト作成と API 有効化

GCP でプロジェクトを作成し、本製品が使う 2 つの API を有効化します。

ヒント

ここからは GCP で作業します。Workspace のタブは閉じてかまいません。残したまま進める場合は、新しいタブで GCP を開いてください。

4.1 Google Cloud Platform へのログイン

1. ブラウザで <https://console.cloud.google.com/> にアクセスします。
2. Google Workspace で使った管理者アカウントと同じアカウントでログインします。

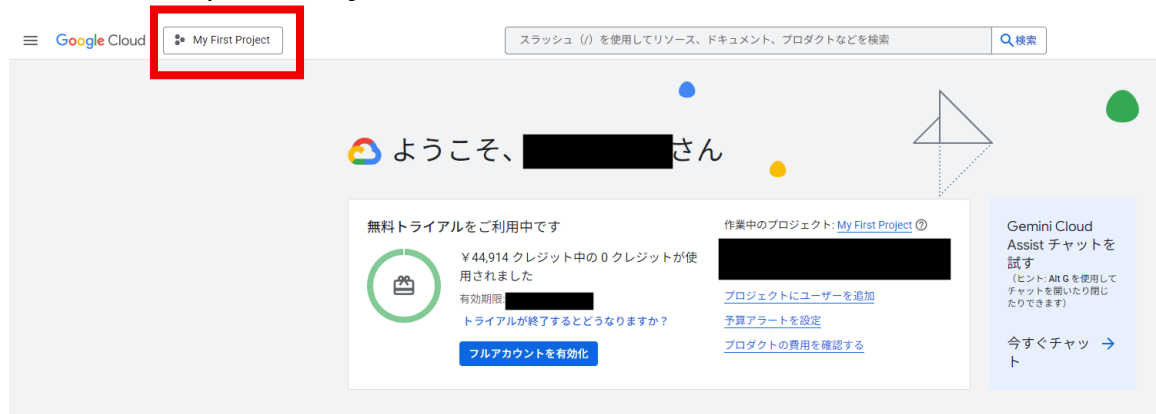
ヒント

はじめて Google Cloud Platform へログインした時は、Google Workspace と Google Cloud のアカウント連携をするため、準備が完了するまで少し時間がかかります。

3. ログイン後、ダッシュボード画面が表示されます。初回は無料トライアル期間の案内が出る場合があります。

4.2 新しいプロジェクトの作成

1. 画面左上の「My First Project」をクリックします。



2. 表示された「リソースを選択」画面で、「組織なし」のプルダウンから Google Workspace のドメインを選びます。



3. ドメイン選択後、画面右上の「新しいプロジェクト」をクリックします。

4. 任意のプロジェクト名を入力し、「作成」をクリックします。例：ATENRoomBookingSystem

新しいプロジェクト

プロジェクト名 *
 ATENRoomBookingSystem

プロジェクト ID: atenroombookingsystem 後で変更することはできません。 [編集](#)

組織 *
 [Redacted]

プロジェクトに関連付ける組織を選択します。この選択を後で変更することはできません。

場所 *
 [Redacted] [参照](#)

親組織またはフォルダ

[作成](#) [キャンセル](#)

ヒント

プロジェクト名は管理しやすい名前でも自由に決められます。ここで決めた名前は第 8 章の RBS Configurator 設定で使用します。

4.3 プロジェクト情報の控え

1. 画面左上の「リソースを選択」から、作成したプロジェクトを選びます。
2. 左メニューの「Cloud の概要」>「ダッシュボード」をクリックします。
3. ダッシュボードの「プロジェクト情報」欄に表示されるプロジェクト名をメモ帳に控えめします。



注意

このプロジェクト名は第 8 章の RBS Configurator 設定で使用します。

4.4 Google Calendar API の有効化

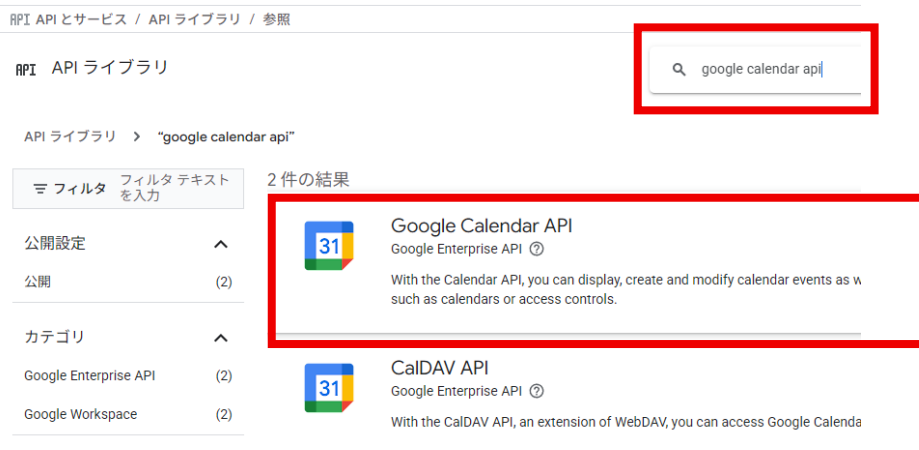
VK430 が Google カレンダーにアクセスするための 1 つ目の API を有効化します。

1. 左メニューから「API とサービス」>「有効な API とサービス」をクリックします。



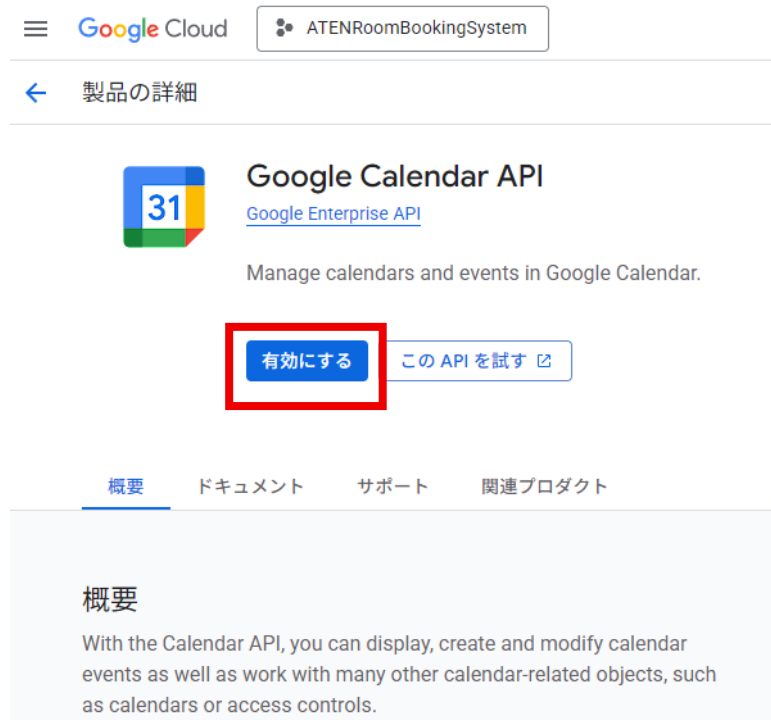
2. 画面上部の「API とサービスを有効にする」をクリックします。

3. 「API ライブラリへようこそ」画面の検索フォームに、Google calendar api と入力します。



4. 検索結果から「Google Calendar API」をクリックします。

5. 「有効にする」をクリックします。



The screenshot shows the Google Cloud console interface. At the top, there is a navigation bar with the Google Cloud logo and a search bar containing 'ATENRoomBookingSystem'. Below the navigation bar, there is a breadcrumb trail: '製品の詳細'. The main content area displays the 'Google Calendar API' card, which includes the Google Calendar logo (a calendar icon with the number 31), the title 'Google Calendar API', and the subtitle 'Google Enterprise API'. Below the title, it says 'Manage calendars and events in Google Calendar.' At the bottom of the card, there are two buttons: '有効にする' (Enable) and 'この API を試す' (Try this API). The '有効にする' button is highlighted with a red rectangular box. Below the card, there is a navigation menu with tabs for '概要' (Overview), 'ドキュメント' (Documentation), 'サポート' (Support), and '関連プロダクト' (Related products). The '概要' tab is selected. Below the navigation menu, there is a section titled '概要' (Overview) with the following text: 'With the Calendar API, you can display, create and modify calendar events as well as work with many other calendar-related objects, such as calendars or access controls.'

4.5 Admin SDK API の有効化

2 つ目の API を同じ要領で有効化します。

1. 左メニューから「API とサービス」>「ライブラリ」をクリックします。

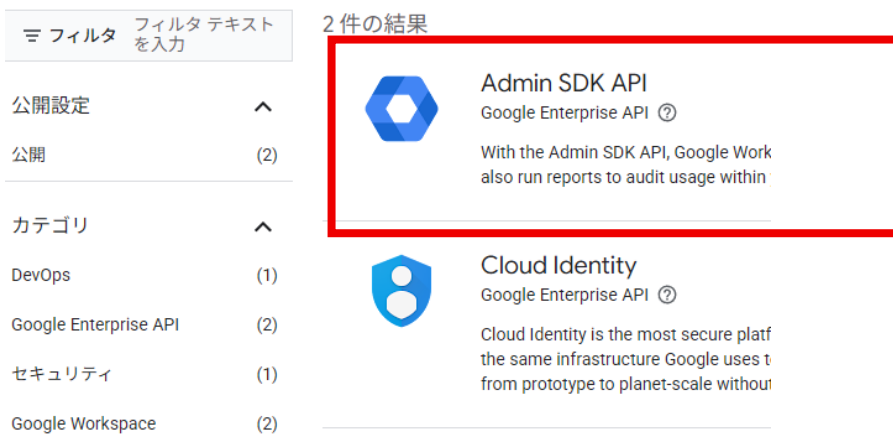


2. 検索フォームに admin sdk api と入力し、検索結果から「Admin SDK API」をクリックします。



API ライブラリ

API ライブラリ > “admin sdk api”



3. 「有効にする」をクリックします。

ヒント

これで Google Calendar API と Admin SDK API の両方が有効になりました。

5. 組織ポリシーの変更

第 6 章でサービスアカウントの秘密鍵を作成するため、先に GCP の組織ポリシーを 1 つ変更します。

注意

GCP の既定では、セキュリティ保護のためサービスアカウントのキー作成が制限されています。本製品はこのキーで認証するため、ポリシーを無効化する必要があります。この変更は組織全体の GCP リソースに影響するため、作業を始める前に組織のセキュリティ管理者に確認を取ってください。作成後は同じ操作にて、再度ポリシーを有効にしても問題はありません。

5.1 組織のポリシー画面を開く

1. GCP コンソールの左メニューから「IAM と管理」 > 「組織のポリシー」をクリックします。



5.2 対象ポリシーの検索と変更

1. フィルタ欄に下の文字列をコピー-&ペーストで入力します。

constraints/iam.disableServiceAccountKeyCreation

適用状態	名前	ID
非アクティブ	Disable service account key creation	iam.managed.disableServiceAccountKeyCreation
非アクティブ	Disable service account key creation	iam.disableServiceAccountKeyCreation

2. 検索結果に表示された「Disable service account key creation」をクリックします。状態はアクティブのはずです。

Google Cloud | ATENRoomBookingSystem | スラッシュ (/) を使用してリソース、ドキュメント、IAM と管理 / 組織のポリシー

組織のポリシー + カスタム制約 シミュレーションの履歴

プロジェクト「ATENRoomBookingSystem」のポリシー

Cloud の組織ポリシーを使用して、組織、フォルダ、プロジェクトにあるリソース、それらのあるリソースへのアクセスを制限できます。制限事項はポリシーの詳細ページで編集できます。

アクティブな組織のポリシー 22 [アクティブなポリシーを表示](#)

Google Cloud セキュリティ ベースラインの制約 22 80% アクティブ [制約を表示](#)

フィルタ constraints/iam.disableServiceAccountKeyCreation 制約名、ID、またはタイプでフィルタ

適用状態	名前	ID
非アクティブ	Disable service account key creation	iam.managed.disableServiceAccountKeyCreation
アクティブ	Disable service account key creation	iam.disableServiceAccountKeyCreation

3. 「ポリシーの詳細」から「ポリシーを管理」をクリックします。

← ポリシーの詳細

「Disable service account key creation」のポリシー [ポリシーを管理](#)

実施中 ドライラン

対象 プロジェクト「ATENRoomBookingSystem」

4. 管理画面で、「ポリシーのソース」を「親のポリシーをオーバーライドする」に変更し、「ルールを追加」をクリックし、「新しいルール」で「適用」を「オフ」に設定して「完了」をクリックします。

Disable service account key creation

This constraint, when enforced, blocks service account key creation.

対象

プロジェクト「ATENRoomBookingSystem」

ポリシーのソース

- 親のポリシーを継承する ?
 Google で管理されるデフォルト値 ?
 親のポリシーをオーバーライドする ?

ルール

組織のポリシールールは、制約によって適用される値を定義します。制約の適用のオン/オフをルール内で切り替えることができます。

[条件を追加] をクリックして、タグに基づいてルールを条件付きにすることができます。これにより、組織のポリシーの適用を細かく調整できます。[ポリシーの条件の詳細をご覧ください](#)。

← 新しいルール 🗑️

適用

オン
 オフ

条件を追加

完了

ルールの追加

変更をテスト ?
ポリシーを設定
▼
キャンセル

5. 設定が完了したら画面下部の「ポリシーを設定」をクリックします。

5.3 設定の確認

1. 組織のポリシー一覧に戻り、「Disable service account key creation」の状態が「非アクティブ」になっていれば成功です。



The screenshot shows a table of IAM policies. The first row is highlighted with a red box. The status column for this row shows '非アクティブ' (Inactive).

適用状態	名前	ID	セキュリティ分析情報	制約タイプ	ポリシーのソース	操作
非アクティブ	Disable service account key creation	iam.disableServiceAccountKeyCreation		マネージド	親のポリシーを継承する	⋮
				マネージド (レガシー)	親のポリシーをオーバーライドする	⋮

ヒント

「Disable service account key creation」が 2 つ表示される場合があります。下側の iam.disableServiceAccountKeyCreation が「非アクティブ」になっていれば問題ありません。

6. サービスアカウントと秘密鍵の作成

VK430 が Google カレンダーにアクセスするために使うサービスアカウントと、その認証用の秘密鍵 (JSON)を作成します。

サービスアカウントは、人間の代わりにプログラムが Google サービスへアクセスするためのアカウントです。VK430 はこのアカウントを使い、既存ユーザーの代理としてカレンダーを読み書きします。

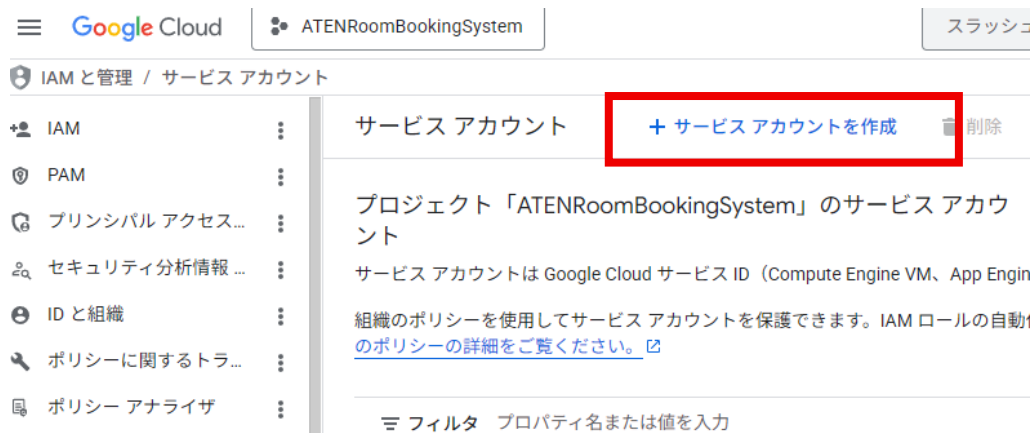
6.1 サービスアカウント画面を開く

1. GCP コンソールの左メニューから「IAMと管理」>「サービスアカウント」をクリックします。



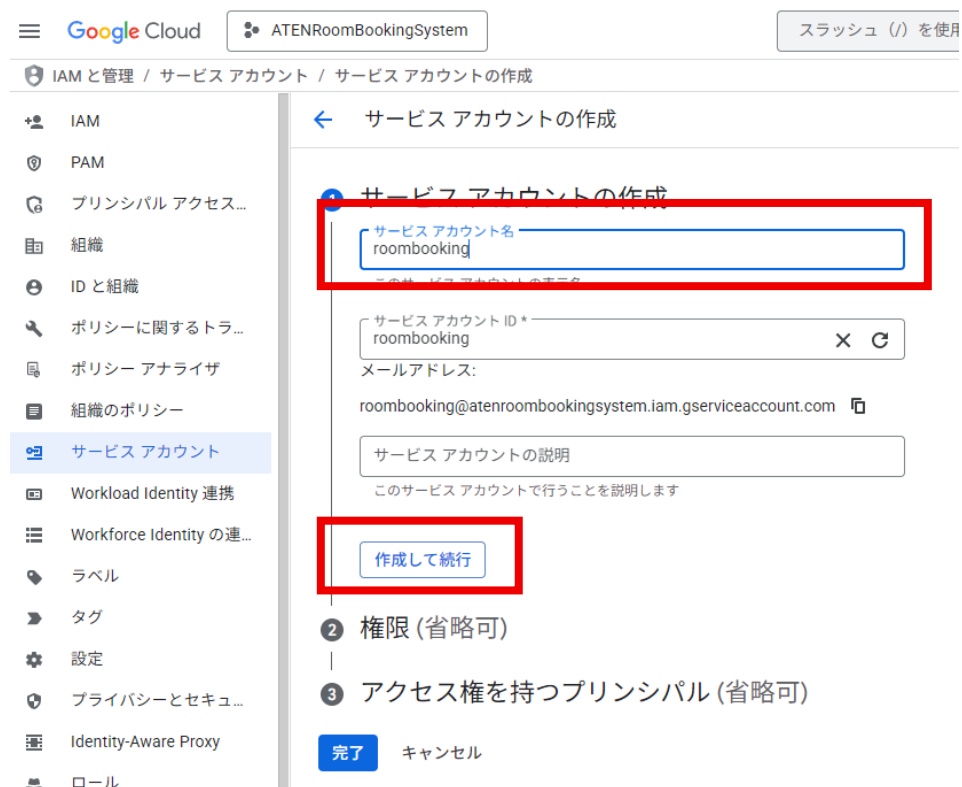
6.2 サービスアカウントの作成

1. 画面上部の「サービスアカウントを作成」をクリックします。



2. 「サービスアカウント名」に任意の名前を入力します。例：roombooking

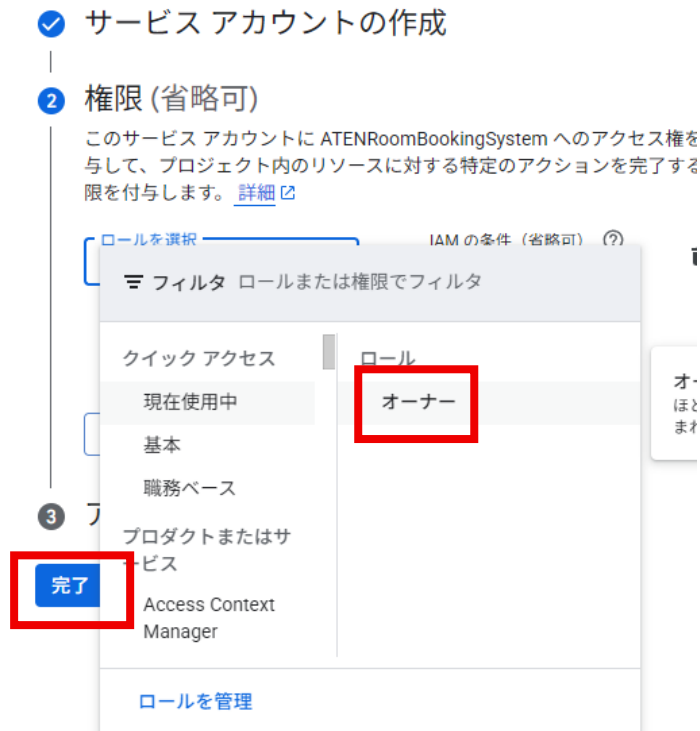
3. 「作成して続行」をクリックします。



ヒント

名前を入れると、サービスアカウント ID とメールアドレスが自動で生成されます。メールアドレスはあとで使いますが、いまは控えず問題ありません。あとの手順で一覧画面から再度確認できます。

4. 「ロールを選択」のプルダウンで「基本」>「オーナー」を選びます。



5. 「完了」をクリックします。

6.3 秘密鍵の作成とダウンロード

サービスアカウントの認証に使う秘密鍵を作ります。この鍵ファイルは RBS Configurator 上でパスワードと同じ役割を果たします。

1. サービスアカウント一覧の右端にある「:」メニューをクリックして「鍵を管理」を選びます。

プロジェクト「ATENRoomBookingSystem」のサービスアカウント

サービスアカウントは Google Cloud サービス ID (Compute Engine VM、App Engine アプリ、Google 以外で実行されているシステムなどで実行されているコード) を表します。 [サービスアカウントの詳細をご覧ください。](#)

組織のポリシーを使用してサービスアカウントを保護できます。IAM ロールの自動付与、鍵の作成やアップロード、サービスアカウントの完全な作成など、リスクのあるサービスアカウント機能をブロックすることが可能です。 [サービスアカウントの組織のポリシーの詳細をご覧ください。](#)

メール	ステータス	名前 ↑	説明	キー ID	キーの作成日	OAuth 2 クライアント ID	操作
roombooking@atenroombookingsystem.iam.gserviceaccount.com	有効	roombooking					

2. 「キーを追加」プルダウンから「新しい鍵を作成」を選びます。

← roombooking

詳細 権限 鍵 指標 ログ フ

鍵

⚠ サービスアカウントキーは、不正使用されサービスアカウントを認証する最適な方法

📌 Google は公開リポジトリで検出されたサー

新しい鍵ペアを追加するか、既存の鍵ペアから公開鍵ください。

[組織のポリシー](#)を使用して、サービスアカウント:

[サービスアカウント用の組織のポリシーの設定の詳細](#)

キーを追加 ▾

- 新しい鍵を作成
- 既存の鍵をアップロード

3. 「キーのタイプ」で「JSON」を選び、「作成」をクリックします。

「roombooking」の秘密鍵の作成

秘密鍵を含むファイルをダウンロードします。この鍵を紛失すると復元できなくなるため、ファイルは大切に保管してください。

キーのタイプ

JSON
推奨

P12

P12 形式を使用したコードとの下位互換性を目的としています

キャンセル **作成**

4. 秘密鍵を含む JSON ファイルが自動でダウンロードされます。

秘密鍵がパソコンに保存されました

▲ atenroombookingsystem-c993f8df8fdc.json によってクラウド リソースへのアクセスが許可されるため、安全に保存してください。[ベスト プラクティスの詳細](#)

閉じる

注意

この秘密鍵ファイルは、VK430 が Google へアクセスする時の認証情報そのものです。外部に漏れると Google Workspace のカレンダーへ不正アクセスされる可能性があります。ファイルサーバーの共有フォルダやメール添付などを避け、安全に管理してください。

5. 鍵の一覧画面で、作成した鍵のステータスが「有効」になっていれば成功です。

ステータス	名前 ↑	説明
✔ 有効	roombooking	

ヒント

この鍵ファイルは第 8 章の RBS Configurator 設定で使います。紛失時はことと同じ手順で再発行し、新しいファイルを使用してください。

7. OAuth 同意画面とドメイン全体の委任

サービスアカウントから Google Workspace のカレンダーへアクセスできるように、GCP と Workspace の両方で連携設定を行います。GCP 側で OAuth 同意画面を設定してクライアント ID を取得し、Workspace 側でそのクライアント ID に権限を付与する流れです。

7.1 OAuth 同意画面の設定(GCP 側)

1. GCP コンソールの左メニューから「API とサービス」>「OAuth 同意画面」をクリックします。



2. 初めて設定する場合は「Google Auth Platform はまだ構成されていません」と表示されます。「開始」をクリックします。



Google Auth Platform はまだ構成されていません
アプリケーションの ID を構成すること、および Google API の呼び出しと Google でログインのための認証情報を管理することを開始します。 [詳細](#)

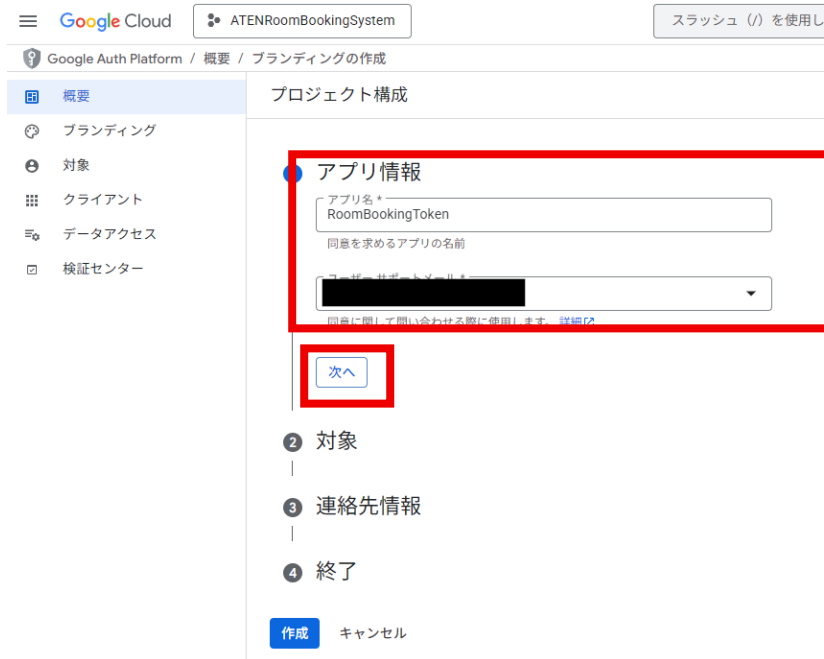


開始

3. アプリ情報画面で下記を入力します。

- アプリ名：任意の名前を入力。例：RoomBookingToken
- ユーザーサポートメール：保守担当者のメールアドレスを選択。不在の場合は管理者アカウントを選択

4. 「次へ」をクリックします。



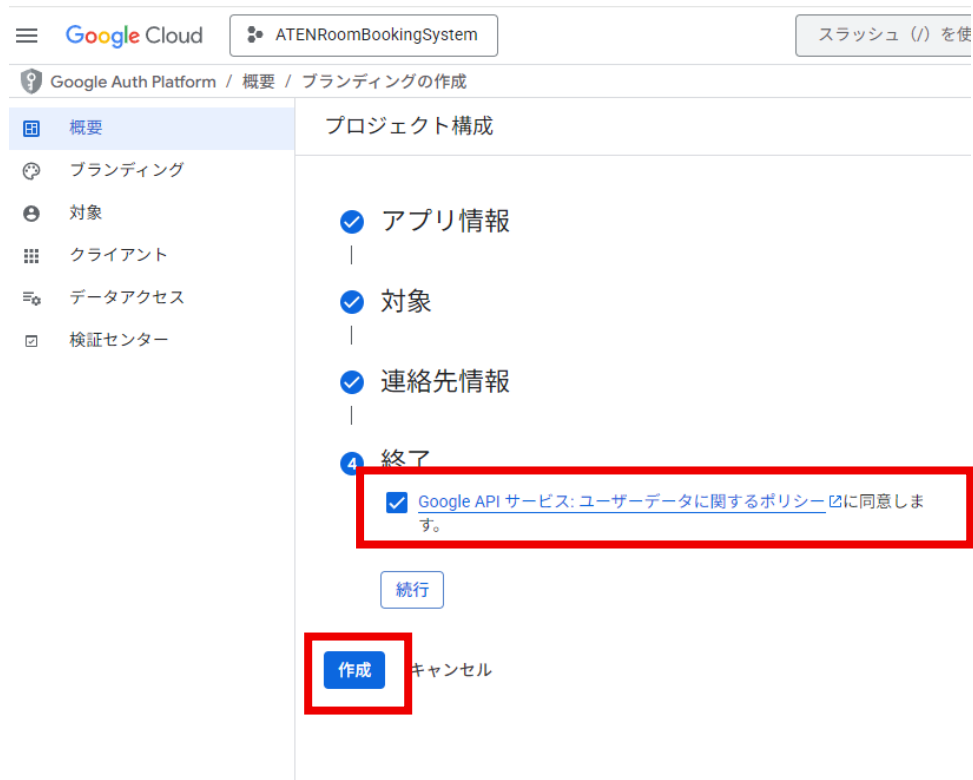
5. 「対象」画面で「内部」を選び、「次へ」をクリックします。



6. 「連絡先情報」に任意のメールアドレスを入力します。保守担当者もしくは管理者のアドレスが適切です。「次へ」をクリックします。



7. 「終了」画面で同意事項にチェックを入れ、「作成」をクリックします。



7.2 OAuth2 クライアント ID の控え(GCP 側)

1. GCP コンソールの左メニューから「IAMと管理」>「サービスアカウント」を選びます。



2. サービスアカウント一覧の「OAuth2 クライアント ID」列に、自動発行された ID が表示されています。

3. このクライアント ID をメモ帳にコピーします。



注意

この OAuth2 クライアント ID は 7.3 節と 7.4 節で Workspace 側の設定に使います。正確に控えてください。

7.3 サードパーティアクセスの許可(Workspace 側)

ここから **Workspace** 側の作業に移ります。新しいタブで <https://workspace.google.com/> を開いてください。

1. Workspace 管理コンソールで、「セキュリティ」>「アクセスとデータ管理」>「API の制御」に進みます。



2. 「アプリのアクセス権を管理」をクリックします。

アプリのアクセス制御

アプリからのユーザーの Google データへのアクセスを管理します。 [アプリのアクセス制御の詳細](#)

[Google Workspace Marketplace の許可リスト](#) にあるアプリと、 [ウェブアプリとモバイルアプリのリスト](#) にある Android アプリと iOS アプリは自動的に信頼されます。

概要

0 個の制限付きの Google サービス

0 個のアプリが審査待ち

18 個の無制限の Google サービス

[GOOGLE サービスを管理](#)

[アプリのアクセス権を管理](#)

3. 「新しいアプリを設定」をクリックします。



3. 検索フォームに 7.2 で控えた OAuth2 クライアント ID を入力し、検索ボタンをクリックします。

新しいアプリを設定

アプリに対するアクセスを設定すると、そのアプリで「Google でログイン」機能（シングルサインオン）を使用する際にこのアプリが OAuth スコープを介してリクエストできる Google データを管理できます。

アクセスを設定するアプリを選択してください。 [アクセスの設定の詳細](#)



4. 検索結果に表示されたアプリのタイトルをクリックします。

新しいアプリを設定

アプリに対するアクセスを設定すると、そのアプリで「Google でログイン」機能（シングルサインオン）を使用する際にこのアプリが OAuth スコープを介してリクエストできる Google データを管理できます。

アクセスを設定するアプリを選択してください。 [アクセスの設定の詳細](#)



5. 「範囲」画面で「すべてのユーザー」を選び、「続行」をクリックします。



6. 「Google データへのアクセス」画面で「信頼できる」を選び、「続行」をクリックします。



7. 確認画面で内容を確認したら「完了」をクリックします。

8. アプリが一覧に登録されたことを確認したら、このセクションでの作業は完了です。



7.4 ドメイン全体の委任(Workspace 側)

OAuth2 クライアント ID に対して、カレンダーとディレクトリ情報へのアクセス権限を付与します。

1. 「セキュリティ」>「アクセスとデータ管理」>「API の制御」の画面に戻り、「ドメイン全体の委任を管理」をクリックします。



2. 「新しく追加」をクリックします。



3. 「クライアント ID」に [7.2](#) で控えた OAuth2 クライアント ID を入力します。
4. 「OAuth スコープ」に下の 5 つの URL を、カンマ区切りで入力します。

OAuth スコープ(5 つすべて入力)

https://www.googleapis.com/auth/calendar.events

https://www.googleapis.com/auth/calendar

https://www.googleapis.com/auth/admin.directory.user

https://www.googleapis.com/auth/admin.directory.group

https://www.googleapis.com/auth/admin.directory.resource.calendar

5. 「承認」をクリックします。
6. 登録後、一覧画面の「詳細を表示」をクリックし、クライアント ID とスコープが正しく登録されているか確認します。

8. RBS Configurator での設定

Google 側の設定はここまでで完了です。取得した情報を RBS Configurator に入力し、パネル端末にプロファイルを配布します。

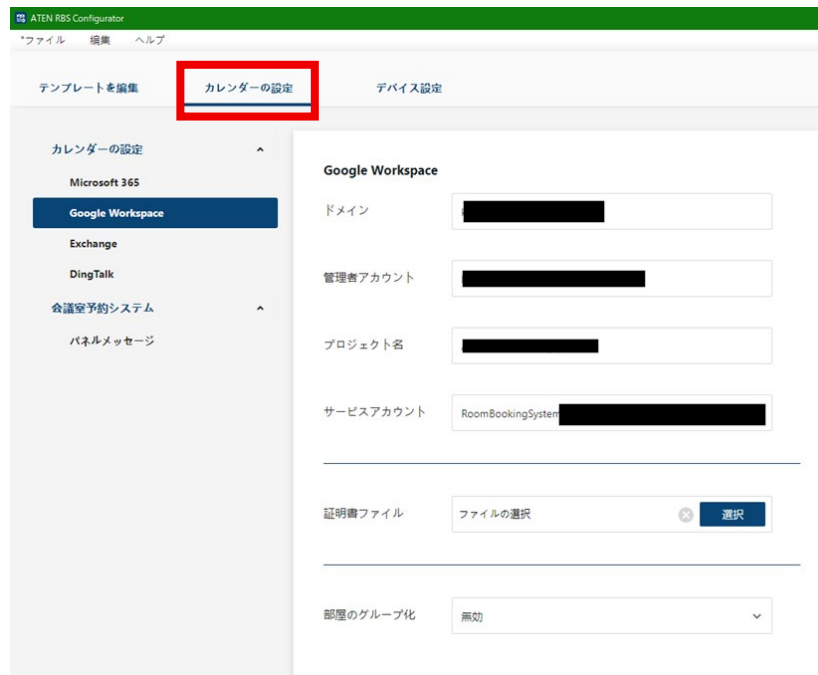
ヒント

RBS Configurator は VK430 と同じネットワーク内の PC で実行してください。画面デザインの編集方法や各種操作の詳細は本ガイドの対象外です。

8.1 カレンダー設定

ここまでで控えた情報を RBS Configurator に入力します。

1. RBS Configurator を起動し、「カレンダー設定」タブをクリックします。
2. 左ペインの「カレンダーの設定」>「Google Workspace」をクリックします。



3. 下の表のとおり、各項目に入力します。「証明書ファイル」は「選択」ボタンから、手順 [6.3](#) でダウンロードした JSON ファイルを選びます。

入力項目	入力する内容	取得した手順
ドメイン	Google Workspace の独自ドメイン	事前準備
管理者アカウント	Google Workspace の管理者メールアドレス	事前準備
プロジェクト名	GCP で作成したプロジェクト名	手順 4.3
サービスアカウント	サービスアカウントのメールアドレス	手順 6.2 で作成。一覧画面で確認
証明書ファイル	ダウンロードした JSON ファイル	手順 6.3

8.2 デバイス設定

パネル端末ごとに、どの会議室リソースを割り当てるかを設定します。

1. 「デバイス設定」タブをクリックし、パネル端末を検索します。
2. 検出されたパネル端末の「カレンダーアカウント」欄に、[3.4](#) で控えた会議室のリソースメールを入力します。

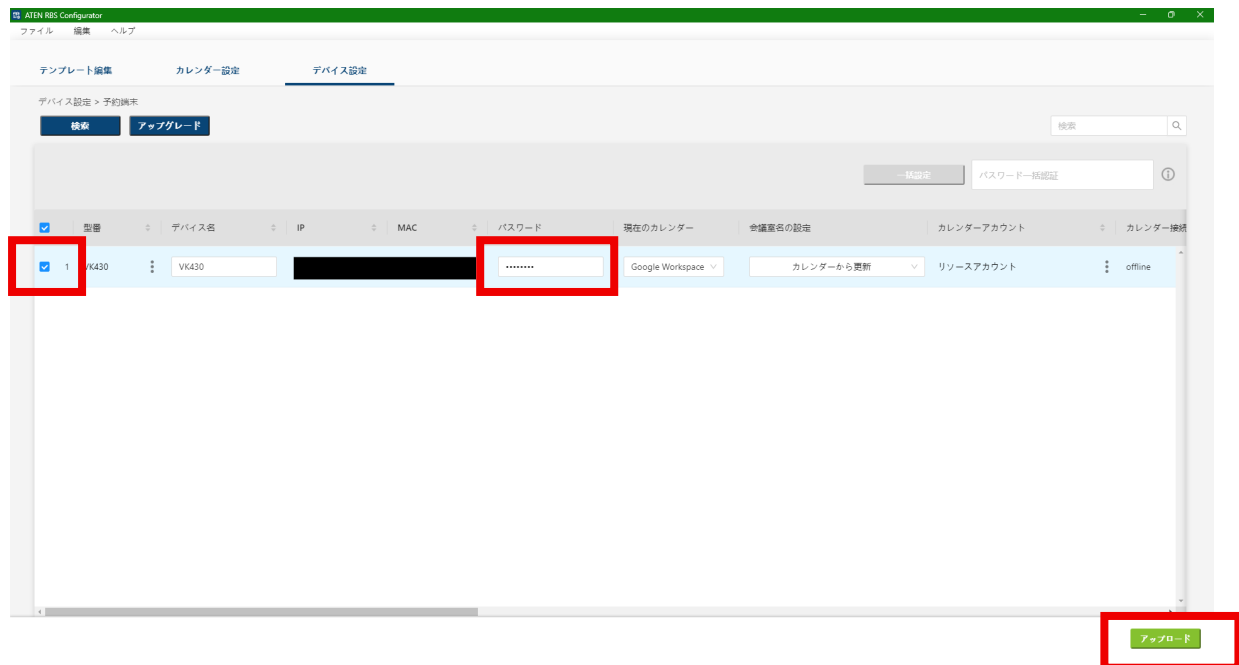
注意

リソースメールは会議室ごとに異なります。パネル端末と会議室の対応を誤ると、別の部屋の予約が表示されません。設置場所ごとに対応を確認してください。



8.3 プロファイルのアップロード

1. 設定が完了したパネル端末のチェックボックスを選び、パスワードを入力します。
2. 「アップグレード」ボタンをクリックしてプロファイルをアップロードします。



アップロード後、パネル端末が再起動して設定が反映されます。カレンダー接続が確立できていれば完了です。

9. 設定の確認とトラブルシューティング

9.1 動作確認

1. <https://calendar.google.com/> でテスト予約を作成します。予約画面で、設定した会議室を参加者として追加してください。
2. パネル端末の画面に、予約情報がリアルタイムで表示されることを確認します。
3. パネル端末のタッチ操作でも、予約の確認や新規予約ができるか試してみてください。

9.2 パネル端末がカレンダーに接続できない

- パネル端末のネットワーク接続を確認してください。googleapis.com へのアクセスが必要です。
- RBS Configurator に入力したドメイン、管理者アカウント、プロジェクト名、サービスアカウント、証明書ファイルに誤りがないか確認してください。
- [第 7 章](#)で設定した OAuth スcope が 5 つすべて登録されているか、Workspace の「ドメイン全体の委任」画面で確認してください。合わせて FAQ の「[10.4 何度か更新したら VK430 が「未接続」になってしまった](#)」もご確認ください

9.3 秘密鍵が作成できない

第 5 章の[組織ポリシー変更](#)が反映されていない可能性があります。「Disable service account key creation」が「有効」になっているか確認してください。ポリシーの反映には数分から数十分かかることがあります。

9.4 秘密鍵を紛失した

秘密鍵の JSON ファイルは再ダウンロードできません。紛失した場合は、[6.3](#) の手順で新しい鍵を作成してください。作成後、RBS Configurator のカレンダー設定で新しいファイルを指定し、プロファイルを再アップロードします。

9.5 設定が反映されない

Google 側の設定変更は、反映までに最大 24 時間かかる場合があります。時間を置いてから再度確認してください。

10. FAQ

10.1 Google Cloud Platform は従量課金だが、いくらかかるか？

2026 年 4 月時点では Google のカレンダー API の使用のみでは費用が発生しないと明示されています。

<https://developers.google.com/workspace/calendar/api/guides/quota>

ただし、規定については Google 様にて予告なく更新される可能性がありますため、定期的にご確認いただきますようお願い申し上げます。

10.2 Google Cloud Platform での利用制限はあるか？

一般的な規模であれば、制限が発生する可能性は非常に低いです。

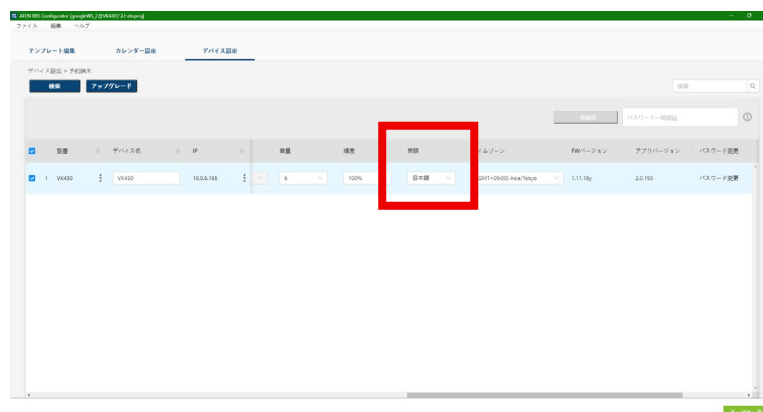
Google 公式のドキュメントを元にするに「1 分間に 2400 回以上の操作」があると利用制限が発生すると一時的に利用制限(403 または 429 エラー)を掛けるようになっています。

<https://developers.google.com/workspace/admin/directory/v1/limits>

例えば 100 台の VK430 を使用する環境で、1 分以内にすべての端末で 24 件の予約操作を同時にすると超過になりますが、この操作頻度を超えるような環境でなければ、多くのケースでは安心してご利用いただけます。

10.3 VK430 の画面で英語表記になっているので、日本語に直したい

データアップロード時に言語を「日本語」に変更して再度アップロードを行ってください。



10.4 何度か更新したら VK430 が「未接続」になってしまった

同じプロジェクトファイルを使用しているにも関わらず、特定の端末だけがカレンダーサーバーにアクセスできなくなった場合は、次をご確認ください

- IP アドレスやサブネットマスクが間違っていないか、VK430 のネットワーク設定画面で確認する
- VK430 を接続していた LAN ケーブルに別途ノート PC など接続し、インターネット環境にアクセスできるか疎通確認する
- LAN のセキュリティが強化されたかネットワーク管理者へ確認する
- DHCP サーバーにて IP アドレスを提供されている環境の場合は、同じ IP アドレスの機器がないか確認する

もしもこれらの設定を確認しても改善されない場合は、RBS configurator から、「端末を初期化する」を行ってください。そして再度プロジェクトファイルを書き込んで通信できるかご確認ください。

10.5 VK430 を 1 台ごとに Google のアカウントが必要か？

アカウントの追加は必要ありません。ATEN RBS の仕組みとして、すでにある Google workspace のアカウントで会議室のスケジュールデータを読み書きします。言い換えると会議室や設備保守をされているアカウントがあれば、その方の代理として VK430 が各会議室のスケジュールを読み書きするという仕組みで動作します。複数の VK430 があってもそのアカウントの方が代理で集約して会議室管理をするようなイメージになります。すでに Google Workspace を契約されているユーザーの方であれば、VK430 などの予約端末だけを購入することですぐにお使いいただけるようになっています。